

平成21年度 社会福祉審議会児童福祉専門分科会
「(仮称) うつのみや子どもプラン策定会議」 議事録

1. 日 時 平成21年8月18日(木) 午前10時00分～午後0時00分
2. 場 所 宇都宮市役所 本庁 14D会議室
3. 議 事
- (1) (仮称) うつのみや子どもプランの策定について
 - (2) (仮称) うつのみや子どもプランの策定に係るニーズ調査結果の概要について
 - (3) (仮称) うつのみや子どもプラン策定に向けた各計画の現状と課題について
4. 出席者
- 【分科会長】伊達悦子委員
 - 【職務代理】直井克仁委員
 - 【委 員】福田智恵委員, 江連晴夫委員, 加藤佳子委員, 安納ミヤ子委員, 新井重陽委員, 福田哲夫委員, 増田宗夫委員, 絹谷よし子委員, 長谷川英一委員, 加治康正委員, 藤田宣昭委員, 渡部修三委員, 野田幸枝委員, 宇山房子委員, 青木孝之委員, 沼尾順市委員, 菅原良之委員, 倉益 章委員, 保坂庄作委員
 - 【事務局】〔子ども部〕鈴木 厚部長
〔子ども未来課〕荻田 修課長, 篠原 豊主幹, 角海正育課長補佐, 角田 浩総括主査, 佐藤 豪主事
〔子ども家庭課〕三好俊也課長, 吉澤正浩係長, 高瀬保男係長
〔保育課〕青柳雅夫課長, 伊藤仁美総括主査
〔子ども発達センター〕塙 雅彦所長, 平石紀子係長, 飛田知恵総括主査
〔生涯学習課〕鈴木孝美課長, 星宮敏一主任
〔学校教育課〕田中芳浩副主幹
〔生活安心課〕須藤一彦係長
〔男女共同参画課〕小島陽子係長
〔商工振興課〕鈴木順子係長
5. 公開・非公開の別 公開
6. 傍聴者数 なし

発言者	内 容
事務局	1 開会
鈴木厚部長	2 子ども部長挨拶
事務局	3 委員紹介
伊達悦子会長	4 分科会長挨拶
	5 議事
	(1) (仮称) うつのみや子どもプランの策定について
伊達悦子会長	事務局から説明を。
事務局	(事務局説明)
伊達悦子会長	質問・意見はあるか。
	(質問・意見なし)
	(2) (仮称) うつのみや子どもプランの策定に係るニーズ調査結果の概要について
伊達悦子会長	事務局から説明を。
事務局	(事務局説明)
伊達悦子会長	質問・意見はあるか。
新井重陽委員	平成15年度調査時と今回とでは回収率が異なっているが、何か違いがあるのか。
事務局	平成15年度は学校・保育園等を通じて調査を行い、今回は郵送により直接調査を行ったという違いがある。
福田哲夫委員	子育てに関して行政に期待することで、安心して医療機関にかかれる体制の割合が低くなっている。これは改善されていることだと思うが、その要因は宇都宮夜間休日診療所の24時間体制が浸透したから

	<p>なのか、医療費助成制度の拡充によるものなのか。</p>
事務局	<p>子ども医療費助成制度の拡充によるものと考えられる。</p>
加藤佳子委員	<p>ひとり親家庭の養育費の取り決め状況で、取り決めをしているが約4割となっているが、民生委員活動を行う中で、実際には支払われていないことが多く見られる。取り決めの状況だけではなく、今後どう対応するかが課題ではないか。</p>
事務局	<p>養育費取り決めの後、父親の場合リストラや再婚などにより必ずしも支払いが履行されていないケースがある。養育費専門の相談員を一名配置しており、家庭裁判所への同行などを行うなど、さらなる体制づくりの推進に努めている。</p>
伊達悦子会長	<p>離婚直後の約束事と少し時間が経ってからでは状況が異なるなど非常にデリケートなものである。加藤委員の発言のとおり、もう少し対応を検討する必要がある。</p>
伊達悦子会長	<p>新井委員からも質問があったが、事業所へのアンケートの回収率がかなり低い。家庭の日の協力について、要請があればという回答が多かった。企業の協力体制の意識はどのようなものなのか。</p>
事務局	<p>従業員301人以上の企業については、一般事業主行動計画の策定が義務付けられているが、宇都宮市は従業員100人以下の企業が大半を占めており、調査票の設問に対する回答が難かしかったため、回収率の低さにつながったものと考ええる。</p>
伊達悦子会長	<p>以前市民会議の関係で浜松市を視察した際、市の認証マーク、協力店と分かるステッカーなどが貼ってあり、すぐに認証できるようになっていた。協力を伝える手立てがあると良い。</p>
新井重陽委員	<p>回答率が5割弱ということで、意識が高い人が回答していると考えられる。ただ、回答していない人の潜在ニーズも大きなものと考えられるがいかがか。</p>
事務局	<p>ニーズ調査が全てではなく、今回のように専門的な方々からの意見、パブリックコメント、社会情勢等を勘案し、プランに反映していきたい。</p>

伊達悦子会長	<p>週に一回ほど中学校に行く機会があるが、クラスの半分程度がひとり親家庭であったり、家庭訪問をしたらひとり親とは思えない状況であったり、ネグレクトと思われるような状態であったりと現場はかなり深刻な状況になっている。そういったことを把握することも大切なことではないか。</p> <p>(3) (仮称) うつのみや子どもプラン策定に向けた各計画の現状と課題について</p>
伊達悦子会長	事務局から説明を。
事務局	(事務局説明)
伊達悦子会長	質問・意見はあるか。
加藤佳子委員	<p>安心して生活できる環境づくりの推進について、ハード・ソフト面での環境づくりは出来てきたと思うが、駅東の開発が進み、障がい者の方の車の乗降場所等は確かにバリアフリー化されたが、トイレに行くにもエレベーターを利用しなければならず、本当に必要とする人のことを考えたものなのか疑問。</p>
福田哲夫委員	<p>病児病後児保育の施設が宇都宮市は平成20年度で3ヶ所と少ない。人口10万人に対し1ヶ所ということから考えると、本来は5～10ヶ所が必要となる。利用するとなると、家から近い、職場から近い、預ける時間は長い方が良いということが求められる。また、利用するにはかかりつけの病院を受診し、紹介状を貰わなくてはならず、それから施設に連れてくと、それだけでもかなりの時間がかかってしまうため、実際には仕事にいけなくなってしまうという現状にある。そのようなことから、病院併設型の施設をつくってもらいたい。また病児二人に対し一人ないし二人の職員を配置しなければならず、赤字の状態になっている。それを解消するためにも補助金を増やして欲しい。</p>
事務局	<p>病児病後児保育の重要性については認識している。来年再来年の増設に向け、医師会とも話し合い、調整しているところ。補助金については、足りないという話は聞いており、確約は出来ないが充実できるよう検討している。今後も、病児病後児保育の施設の充実に努めて行きたい。</p>

伊達悦子会長	昔は地域の人たちの助け合いで成り立っていたが、今の時代そうはいかない。これからは民間が担っていく事業、公が担っていく事業の選別が必要になる。
倉益章委員	子どもの家事業について、ニーズ調査から平均利用希望時間は6時半となっており、利用時間の延長を求める結果も出ていることから、受益者負担であれば、あと1時間くらいの延長は出来ないものか。
事務局	現在6時まで留守家庭の子を預かっており、受益者負担で、希望に応じて6時以降、7時頃まで延長しているところもあるが、ばらつきはある。今後も利用が増えることは予想されることから、宮っ子ステーションのあり方を検討する中で、利用者負担や時間延長を含めて検討する。
藤田宣昭委員	県でも子育て支援プランが今年で前期を終えるため、後期の素案づくりが進められているところだが、その辺の兼ね合いはどうか。
事務局	県もちろんプランをつくっているが、次世代支援行動計画のみとなっている。本市は次世代育成支援、青少年健全育成、母子保健、ひとり親を総合的に含んだ計画となっている。次世代育成支援行動計画は国から指針が出されており、保育サービス等については数値化するものも示されている。県のプランについては、各市町村の内容をまとめサービス量を出したりしており、関連はある。
藤田宣昭委員	先ほど会長から話もあったが、認定であったり、表彰であったり中小企業を含んでももう少し企業を巻き込んで計画をつくってほしい。
伊達会長	宇都宮に住んでいる人たちの計画なので、企業の協力も得ながらすすめていけば、宇都宮市のカラーを出せると思う。
福田智恵委員	心身ともに健やかに成長できるのところに、デートDV関係の教育も含んではどうか。デートDVの低年齢化が進んでいること、人権教育にもつながるのではないかと。安心して妊娠出産ができるのところに、乳がんの低年齢化、妊娠時の発見なども多いことから、乳がんの健診を加えてもらいたい。またアレルギーの問題も増えてきており、未然防止の取り組みを加えてはどうか。
事務局	県では、先日、高校の教職員を対象としたデートDVの講座が開かれ

	<p>たところである。デートDVは、人権教育や性教育とつながるものと考えている。教育委員会と連携を図りながら、デートDVの啓発を考えていきたい。</p> <p>子どものアレルギーは食育であったり、地区市民センターの保健師による講座・栄養士による相談を行っているが、計画の中で考えていきたい。</p>
伊達悦子会長	<p>高校生の年代のデートDVが多発している。将来的な虐待を考えると深刻な状況にある。</p>
新井重陽委員	<p>業務で関わっている中で、虐待は大きな問題になっている。虐待は連鎖が多く、虐待をしている親も子どもの頃虐待を受けている傾向がある。宇都宮にも児童養護施設があり、施設で育った子が家庭を持ったとき、施設での生活しか知らないため家庭での生活が分からず、自立できないことがかなりある。連鎖を止めなければと考えるが、十分には出来ていない状況にある。児童虐待防止対策地域協議会の活動にも力を入れたい。全国的に中核市で児童相談所を整備する所もある。50万都市なので、身近な所に児童相談所があればと思う。</p>
伊達悦子会長	<p>暴力について子どもたちに歪みがあると思うので、デートDVの啓発を人権教育に組み込む必要があるのではないか。児童相談所については、以前構想があるという話も聞いているが、将来的には考えなければならない問題である。</p>
江連晴夫委員	<p>地域における子育て・子育てを支援する環境づくりにおいて、宮っ子ステーションの設置目標はすべての小学校区だが、現状は3ヶ所ほどで実態は進んでいない。今後どのように充実していくのか。</p>
事務局	<p>留守家庭児童対策である子どもの家と放課後子ども教室を合わせたものが宮っ子ステーションである。今年度も推進を図っており、現在6ヶ所となっている。各学校や地域と話を進めており、さらなる推進に努めている。地域ぐるみで子どもを育てることが大切であると考え、全小学校区での早期実施を目指している。</p>
長谷川英一委員	<p>虐待相談が全国と比べ突出しているのはなぜか。</p>
事務局	<p>テレビ等で取り上げられ、昔からあったものが表面化したのではないか。通告についての周知や連携を図っており、通告を受けたときには</p>

事務局	<p>家庭訪問を実施している。実際に訪問してみると、宿題が終わらず母親が怒鳴っていただけであったということもある。これは通告に対する周知が進んできたのではないか。</p> <p>115件全てが虐待ではなく、相談件数の総数である。</p>
福田哲夫委員	<p>小児科医として、医療費の助成制度は素晴らしいものと考えている。ただ、予防接種で防げる病気もある。予防接種の費用は高いものだが、接種すれば予防できる病気があるので、将来的には医療費の抑制につながる。そういう面での助成制度もあるのではないか。</p> <p>6 その他</p>
事務局	<p>次回の会議は10月上旬を予定している。今回の意見を参考に子どもプランの施策の体系を示せればと考えている。</p>
伊達悦子会長	<p>長時間に亘ったが、たくさんの意見が出た。今後も宇都宮のため、これからも意見が出ることを期待したい。</p> <p>(閉会)</p>